

春合宿：飯豊連峰縦走

- ◆日程 2022年4月29日（金）～5月4日（水）
 ◆メンバー L：SD、YN、OY、OT、TY、DT

総括

2022年度春合宿は飯豊連峰を5泊6日かけて縦走するという気合の入った合宿であった。

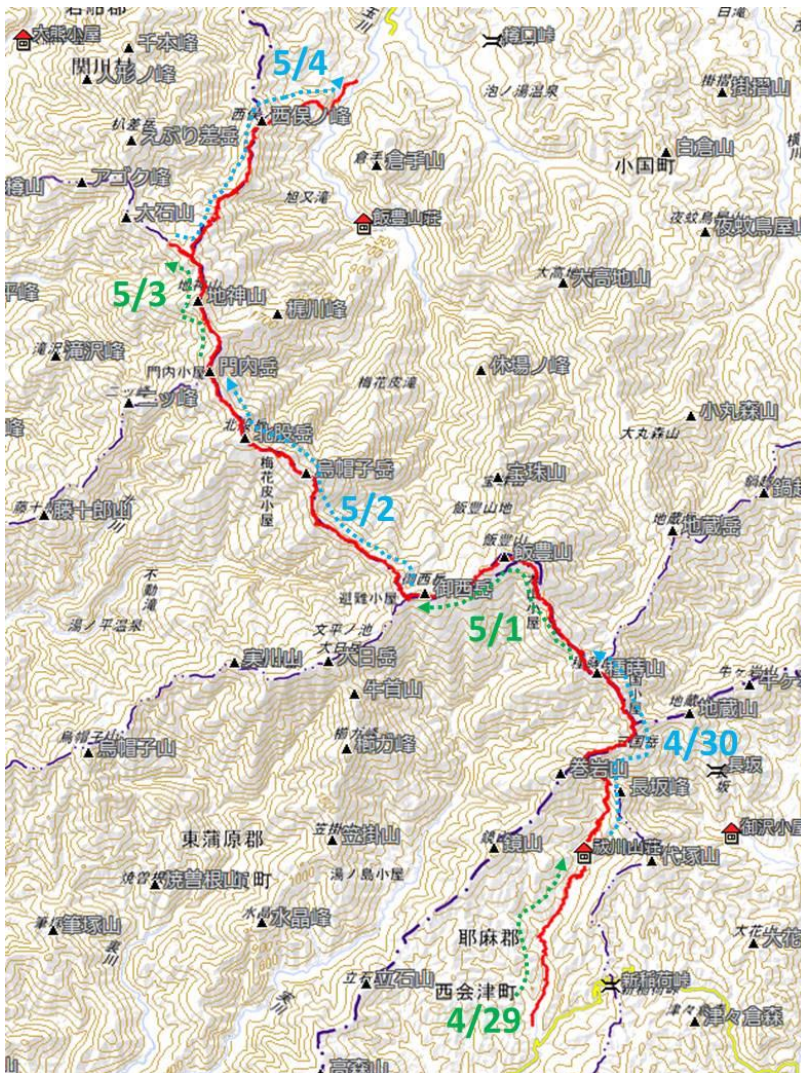
私にとって飯豊連峰は過去2回悪天候で計画を断念していて今回は3度目の正直である。東北特有の避難小屋を利用した山行となったが、長期のため食料計画では共同食、個人の行動食ともに軽量化に留意して準備を行った。ただ春山という季節柄、冬用ヤッケとレインウェアを両方持って行く必要があり、実際初日から雨に降られ、途中暴風雪に見舞われ、残雪期の洗礼を受けまくることとなった。

その点で大きな武器となったのが天気予報の精度の高さであった。ヤマテンを始めとした山岳専門の天気予報は驚異的な精度を誇り、行動計画を決定する過程で大いに参考にした。またスマホで利用できるGPSもホワイトアウトでの行動を可能にする装備として欠かせないものとなった。加えて今回のような長期山行ではアルファ米やフリーズドライといった軽量かつ美味

しい食材を利用することで軽量化への貢献度は計りしれないものだった。今や山岳気象予報、スマホGPS、フリーズドライを山の3種の神器と呼んでも過言ではないだろう。

今回予備日まで使って5泊6日の長期山行となったが、常にパーティーの雰囲気は良く楽しく山行を続けられたチームワークの勝利であろう。新人から大ベテランまで揃ったメンバーは計画通り行程が進まず、小さなトラブルも有った中、意見を出し合い相談して最善の行動を選択する姿勢を最後まで貫くことが出来た。メンバー全員に感謝したい。またメンバーの一人が今回の合宿を通して、山岳会に入って良かった！と言ってくれたことが本当に嬉しく、山の会の真骨頂であると思った。

（記：SD）



4月29日(金・祝) 天候：曇のち雨

山の会として数年前から企画していた飯豊連峰春合宿がコロナで中止されやっと実施されることになり老体ながら参加させてもらいました。35年ほど前の夏に南から北の飯豊連峰縦走をした事があったが長い道のりだった記憶だけが残っていましたがまた行きたい山の一つでした。

今回の入山口は弥平四郎から祓川経由にした為、東京一郡山一バスで会津若松駅経由野沢駅→デマンドバスで弥平四郎登山口まで行き、1時間半程の林道歩きで祓川Pから小屋に向かった。

新幹線は、指定席が取れなく東京発9時16分まで並んで自由席となった。YNは大宮からの乗車で、デッキで立ちん坊状態であったが、宇都宮、那須辺りで空席も出たが、ザックを横に倒して子供と座って終点まで行く。コロナ禍でも連休開始日の人の動きを感じた。

野沢駅よりデマンドバスで弥平四郎に向かう途中から雨が降り出し、弥平四郎バス停からは雨具着用の出発となる。



祓川山荘までは1時間半ほどの行程なので傘をさしながら軽い気持ちで出発した。

登山道は祓川駐車場手前より右側の沢に下り木橋を渡っていくが、その橋が崩壊していて渡れなく、また水量も多く渡渉するには躊躇したい状況であった為、多少下流に横たわった大きな朽ちた木を使い対岸に渡り大きく高巻(写真)して、1m強程の沢を飛び越えて登山道に行きつく事ができた。1m強程の小さい沢は、SDリーダーとOTが順にザックを背負ってやっとのこと飛び越えたが、三番手からはザックを先渡しして空身で飛び越えた。

雨足もやや強くなってきた中、20分程で山荘に到着し、ずぶ濡れになった衣服を1階に干して2階で就寝した。初日から多難なスタートになった。(記：YN)

CT：弥平四郎(入山口) 14:40 - 弥平四郎登山口駐車場(渡渉地点) 16:05 - 祓川山荘 17:20(泊)

4月30日(土) 天候：霧のち晴れ

4時起床、一晩干していたずぶぬれの装備は完全に乾かぬまま6時過ぎに祓川山荘を出発。霧かかったブナ林が幻想的で美しい。しかしここは北アルプスではなく東北の山、登山道のマークが少なく先頭者がルートファインディングをしながら足を進める。デジャヴかと思うほど夏道と雪のトラバースを何度も繰り返し高度を上げていく。疣岩山手前の祓川分岐に向かう斜面はクラックも走り雪崩リスクも伴う場面。パーティーで複数ルートを話し合った結果、SDLが稜線までのルートを取り、パーティーが後に続いた。稜線に出ると素晴らしい絶景が広がり、しばしのもぐもぐタイム。

疣岩山を過ぎて三国岳までのルートも予想以上のアップダウンが続き、アドバイスをいただきながら慣れないキックステップのくだりにひとり緊張が続く。13時過ぎにようやく到着した三國小屋での休憩中、三國小屋から飯豊本山をピストンしてきたという栃木の山岳会パーティーに出会う。ここまでノートレースだった為この先はトレースがあることに安堵する一方、まだ2時間以上の行程があることに一抹の不安を感じる。夏道のCTだと6時間の本日の行程、この時点ですでに7時間。夏道CTで残り2時間の行程は何時間かかるのだろうか・・・

幸い視界も良好でトレースもあり、ほぼ夏道のCTで目的地の切合小屋に16時前に到着。暖かい避難小屋で身体を休ませ、翌日の飯豊本山登頂に期待を膨らませ就寝した。(記：DT)



＜三国岳を目指す稜線にて＞



＜疣岩分岐へルートを作るリーダー＞

CT：祓川小屋 6:11 - 松平峠 10:15 - 疣岩山 12:36 - 三国岳 13:33 - 切合小屋
15:52(泊)

5月1日(日) 天候：曇のち雪

前日後半の暑さとは打って変わって天気は下り坂。ガスの晴れ間に近隣の山が顔を出す程度だ。隊列のオーダーは昨日に続いて今日も SDL が最後尾に着き、トップがルートファインディングでセカンドがフォローし、4番目が中央を固め、順次交代するシステム。まずは自分が先頭を引かせてもらう。草履塚までは緩やかな登りが続く。朝の冷え込みで雪はしっかり締まっている。トレースを追いながら歩き易い場所をゆっくりと踏む。体が十分温まったところで草履塚。衣類調整と休憩を挟み御秘所へ。ここはコース有数の岩稜帯だ。ピッケルをザックに挿し、四肢を使って慎重によじ登る(写真上)。通過すると岩稜の下りはないので一安心。ガスの合間に飯豊本山や大日岳が垣間見える。暫く我慢の登りを続けるとようやく本山小屋に到着。小屋の中は暖かく誰もいないが、2



階から入りアイゼンを外さねばならない。外の風を避けられる場所で休憩となった。風と霧のなか微かなトレースを追いながら緩やかに登ると飯豊本山山頂到着。皆で記念撮影(写真下)。



ここで自分はトップを終了し、4番目に下がる。TYさんをトップに広く平坦な雪原を進む。トレースが見えないためGPSの出番だ。要所で現在地を確認しながら進む。風雪が強まってきたところで御西小屋着。小屋に入って体を温め、予定していた飯豊最高峰である大日岳への空荷アタックの可否を議論。天気予報サービス『ヤマテン』の言う通り天候は悪化する一方のため、断念することとなった。夕方まで、SDさんが停滞時用に持ってきてくれたトランプでひとしきり盛り上がり、ここまでの疲

れを癒すとともに良いリフレッシュになった。翌朝3時起床と定め、7時半就寝。

・・・夜中にトイレに起きて、外によじ登る際に大きな段差のあるドア枠に左膝下をぶつけてしまった（ひやりハッと参照）。痛みを感じたので直ぐに手持ちの消炎鎮痛剤を貼り、結果的には事なきを得た。寝ぼけていたとは言え、エスケープできない縦走中はケガをしないよう、十分に注意を払わねばならない。
(記：OT)

CT：切合小屋 5:00 - 草履塚 5:40 - 御秘所（岩稜）6:30 - 本山小屋 7:40/8:00 - 飯
豊山（本山）8:20 - 御西岳 9:30 - 御西小屋 9:40

5月2日(月) 天候：曇時々晴れ

予定通り3時に起床すると、激しい風の音が聞こえる。食事を済ませ天候を確認するが、風が強くホワイトアウト状態であった。5時出発予定ではあるが、予報では早朝は風が強くその後良化する予報であったため暫く待機した。その後天候の良化は見られなかったが、行程を考慮し7時頃の出発を決めた。強風を避け小屋の陰で準備をしていると、雲の切れ間からパッと光が差した。「ヤマテンの予報通りだ!」と感動した瞬間であった。この後は吹雪が収まり、曇り空ではあるが、比較的安定した天気となった。

御西小屋を後にし、まずは天狗岳を目指す。吹雪は収まりつつあるが相変わらず視界は悪い。コンパスとスマホGPSを頼りに、30cm前後の新雪の中を進む。40分程度登るとほどなくして天狗岳山頂に到着した。天狗岳からは西側に笹藪やハイマツ帯があり、それを頼りに進むことができた。天狗ノ庭という少し開けた地点を通過すると、地図上には「残雪時の滑落に注意」と書かれているが、特に狭い尾根ということもなく、順調に進むことができた。



御手洗の池、亮平の池の地点名から夏場は池があるのだろう、なだらかなアップダウンが続き、その後は烏帽子岳への登りが始まった。ルート上からは烏帽子岳山頂は見ることができず、2回程偽ピークに期待してしまっていたが、烏帽子岳山頂を踏むことができた。

烏帽子岳を過ぎると青空が覗くようになり、天候は安定してきた。一度下り梅花皮岳（写真上）へ登り返せば、梅花皮小屋が見えてきた。梅花皮小屋へ下り休憩をとる。梅花皮岳と北股岳の鞍部に建っている小屋ではあるが、風は穏やかであった。比較的大きな小屋で、内部は一見体育館のようであるが、清潔感があり、小屋内に綺麗なトイレもあり、良い小屋と感じた。

梅花皮小屋を出て北股岳（写真下）を登れば、この日の最高地点となり、あとは基本的には高度を落とすだけとなる。門内岳への登りが始まる頃、雲行きが怪しくなってきたが、門内岳を経由し、無事に門内小屋へ到着することができた。
(記：OY)

CT：御西岳避難小屋 7:12 - 烏帽子岳 10:41 - 梅花皮岳 11:36 - 梅花皮小屋 12:43
- 北股岳 13:22 - 門内岳 15:07 - 門内小屋 15:18



5月3日(火・祝) 天候：霧のち晴れ

3時起床、朝食を済ませ出発の準備を整えた。下山日だが濃霧と強風で稜線歩きは厳しい天候だった。下山の可能性を残し強風の中、門内小屋を出発した。風に煽られ何度もよろめいた。視界もトレースも無くたまに開けた視界と勘を頼りに先頭を歩いた。笹藪に載った雪に足を取られもがきながら進んだ。この先の天候によってはパーティ全員無事に下山できるか分からないが進めるだけ進もうと思った。

その時、最後尾のSDLより風が強い為、~~北壁に引き返そうと言われ~~小屋へ戻った。がむしろ先に先頭を歩いていた私は前進しか頭がなくSDLの冷静な判断に救われた。風は一向に止む気配はなく小屋でトランプをしながら風が弱まるのを待った。風は弱まらなかったが午後には回復傾向の天気予報だった為、頼母木小屋を目指して再度出発した。ビバークも想定してフライとガス、コンロをすぐ出せるようにザックの上に入れた。出発間際に杵差岳から来た二人組が小屋に入って来た。トレースがあることに勇気づけられた。

朝よりは風は若干弱まった様感じた。トレースもあり時折日が差すタイミングもあったので行けると思った。高低差が少ないせいもあり順調に頼母木山に辿り着いた。その頃には青空が出て一面の大展望に一同笑みがこぼれた。翌日も強風予報だった為、このまま下山して尾根途中でテント泊の案も出たが一同疲労困憊しており視界の中の頼母木小屋の誘惑のままに小屋泊で一決しました。

今回は5泊とも小屋泊りでしたが暖かく、十分なスペースは疲労回復の強い味方となりました。予備日の為、各自非常食で夕食をとり19時過ぎには眠りについた。(記：TY)



<出発前の門内小屋>



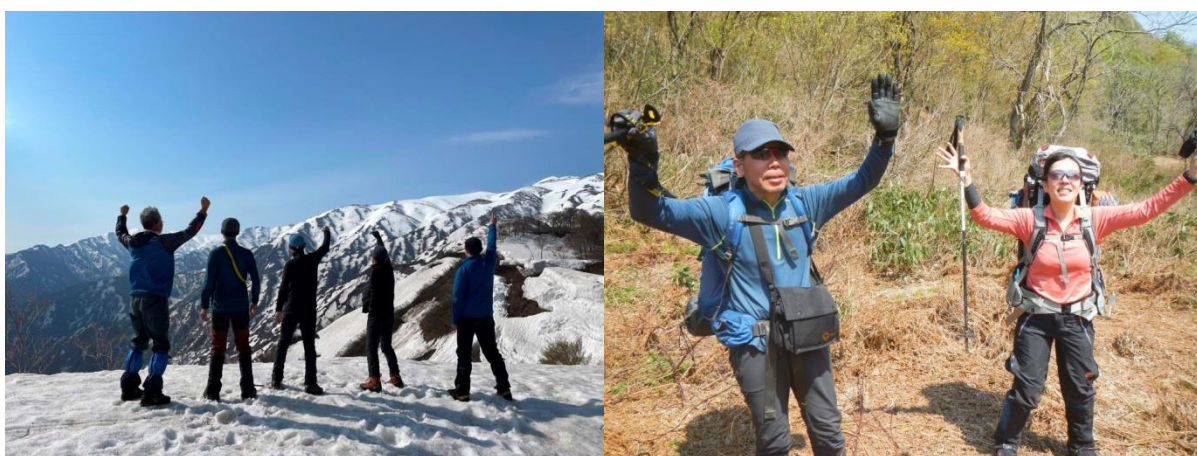
<頼母木山を目指す>

CT：門内小屋 12:12 - 扇ノ地神 13:00 - 地神山 13:51 - 頼母木山 14:54 - 頼母木小屋 15:20(泊)

5月4日(水・祝) 天候：晴れ

6日目にしてやっと下山日になった。予報では朝は20m近くの強風だったが頼母木小屋から頼母木山への上りは10m位でそれほどでもなかった。天気は良く杵差岳が綺麗に見えて、次回は秋にでも杵差岳に登りに来たいと思った。頼母木山の手前を左に進み西俣ノ峰に向かう。昨日登って来た人のトレースがしっかりと残っていて不安はない。ただし下りなので万が一支尾根に入らないようGPSで確認しながら進んで行く。すぐ暑くなり上下のヤッケを脱ぎ、ビーニーからキャップに替え、下山日の解放感と相まって軽やかに下ってゆく。枯松峰を過ぎ西俣ノ峰に着く頃には下から登ってくる登山者とすれ違うことも多く、我々が6日目だと知ると皆驚きの声を上げるのが何とも愉快だった。最後の急な下りを下りきると登山口の標識が現れた。これでようやく6日間の長くて、春山特有の雨と雪に翻弄された、とてもとても素晴らしい春合宿が終了した。全員が清々しいやり切った表情を浮かべていた。その後飯豊梅花皮荘で温泉に入り小国経由で帰途に就いた。なおOT、TYの両名は月山に登ってから帰るとのことでそのタフさには参った。

(記：SD)



CT：頼母木小屋 5:05 - 西俣ノ峰 8:15 - 登山口 9:55-飯豊梅花皮荘(下山口) 10:15

【食事】

今回の春合宿は冬山装備の4泊5日(+予備日1日)の縦走で日数も長く荷物も多いため、軽量化が重要なポイントであった。各食事担当が事前にメニューを考え共有したが、メニューが重複することなくアイデアに富んだ食事を満喫することができた。

軽量化のため、アルファ米やフリーズドライ食品をベースとしつつ、プラスアルファの調味料や食材で食欲を増進させたり身体を温めたりする工夫があった。

行動食も各自工夫がみられ、総じて「重量に対してカロリーが高いもの」をうまく選んでいたようだった。

これから夏秋シーズンに向けて行程の長い山行計画も増えると思うので、ぜひ参考にして頂きたい。

(記：DT)



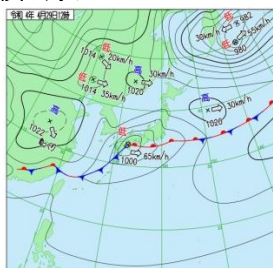
2022年 春合宿 食事表

	朝	担当	夜	担当
4月29日			Menu: プルコギ丼 牛肩ロース 800g 玉ねぎ 1個 赤黄パプリカ 各1個 にんにく 2欠片 プルコギの調味料各種 (事前に下味) アルファ米 4袋	GT
4月30日	Menu: にゅうめん 塩分0そうめん 180g×3袋 鶏ささみパウチ 2袋 乾燥小松菜 適量 うどんスープ 3袋	GT	Menu: クリームリゾットとミネストローネ エビピラフ (尾西ノサタケ) × 4 クリームシチュー (アマノフー	OY
5月1日	Menu: 鹿児島とんこつラーメンカレー風味 鹿児島黒豚とんこつラーメン×5 カレー粉×小さじ5 野菜たっぷりみそ汁の具×適量 魚肉ソーセージ×1	OY	Menu: チリコンカン オリーブオイル 30g プラスチックパック無塩せきコンビーフ 80g 乾燥玉ねぎ 60g ミックスビーンズ (キドニー, 白いんげん, ひよこ) 紙パック 380g 粉末トマト 30g ケイジャンシーズニング 20	OT
5月2日	Menu: ラーメン 明星バリカタラーメン (ノンフライ麺) 5袋 明星バリカタラーメン (豚骨スープ) 2袋 フリーズドライ卵スープ 3袋 乾燥野菜 (ほうれん草, 小松菜, 大根葉) 各5g	OT	Menu: 親子丼+みそ汁 アルファ米4人分 フリーズドライ親子丼6人分 粉末味噌汁6人分	TY
5月3日	Menu: スープパスタ 粉末コンクリーム6人分 スープ用パスタ280g	TY	各自用意した予備食 (アルファ米、フリーズドライ雑炊、シリアル等々・・・)	各自
5月4日	各自用意した予備食	各自		
おつまみ	するめ/柿ピー/ミックスナッツ/サラミ/ビーフジャーキー/魚肉ソーセージ/めざし/干しホ			
行動食	トレイルミックス/Soy joy/プロテインバー/シリアル/バウムクーヘン/玄米ブラン/カントリーマアム/菓子パン/きな粉の練り菓子/アルファ米 (ドライカレー等)、などなど			

【天候と雪の状態】

現地の天候、積雪状態について

4/29 (金)

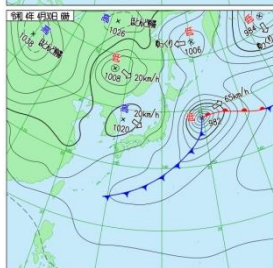


若松の天気は曇り後雨、最低気温は 8.2℃最高気温 13.8℃、風は 1～3m/s でした。

現地状況は、昼過ぎから小雨が降り出し、弥平四郎登山口手前でタクシーを降りた 14 時 30 分ころには本降りの雨となりました。

林道から登山口までは日陰に雪が残る状況で、登山道へ降りるとほぼ残雪となりました。

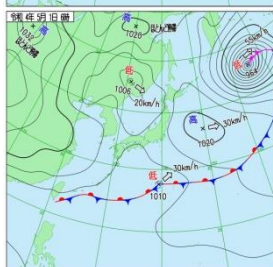
4/30 (土)



若松の天気は晴れ後曇り、最低気温 2.9℃最高気温 16.7℃、風は 2～5m/s でした。

現地状況も朝から晴れ、風も穏やかな状況でした。ルート状況は概ね残雪が残る中、尾根や南面は地面が露出している状況でした。

5/1 (日)

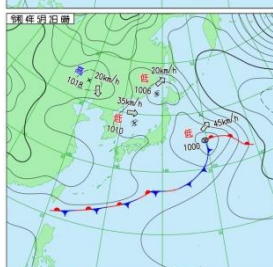


若松の天気は曇り後雨、最低気温 9.4℃最高気温 15.7℃、風は 1～7m/s でした。

現地の状況は朝から曇り空で予報通りに昼前から天気が崩れ吹雪になりました。

ルート状況は岩稜帯を除きほぼ積雪がある状況でした。

5/2 (月)

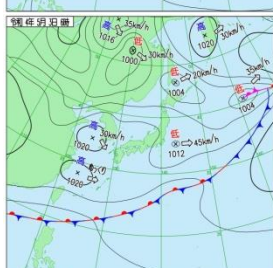


若松の天気は晴れ時々曇り、最低気温 3.7℃最高気温 17.4℃、風は 1～5m/s でした。

現地の状況は朝方までは暴風雪でしたが、7 時過ぎから天気は回復しました。

ルート状況は一晩降り続いた雪のため、20 cm～30 cmの新雪となりました。

5/3 (火)

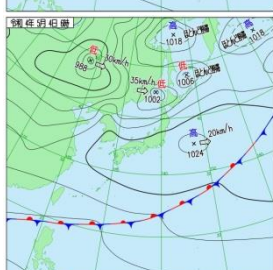


新潟の天気は晴れ、最低気温 6.9℃最高気温 15.2℃、風は 2～6m/s でした。

現地状況は曇り時々雪で午前中は強風でしたが、午後からは少し風がおさまり曇りでした。

ルート状況は朝方まで雪が降ったため 20 cm～30 cmの新雪でした。

5/4 (水)



新潟の天気は晴れ、最低気温 8.5℃最高気温 22.5℃、風は 2～8m/s でした。

現地状況は晴れるも強風でした。

ルート状況は朝気温が低いうちは締まった雪でしたが、高度を落とし気温が上がるとザラメ状の残雪となりました。

(記：0Y)